

特定非営利活動法人

かいろう基山 まちづくり計画

令和7年7月8日

特定非営利活動法人 かいろう基山 まちづくり計画

目 次

(全体計画) かいろう基山 まちづくりの基本的計画図	1
I まちづくりのテーマ	
「癒しの里山づくり ～ 何度でも訪れたい緑と清流の森づくり」	
1. 環境の保全	2
2. 子どもの健全育成	2
3. 経済活動の活性化	2
4. まちづくりの推進	3
II テーマ別行動計画	
(1) 里山再生事業	3
(2) 「市民力」の養成	3
(3) 体験イベントの開催	4
(4) 法人との協働イベントの開催	4
(5) 竹の資源化	4
(6) 牛ふん堆肥「基山の力」の活用	5
(7) 子どもの遊び場づくり	5
(8) 「大人の語り場ー焚火を囲んで」の開催	5
(9) 町で開催されるイベントへの参加	5
(10) 自治会等との交流	5
III リーディングプロジェクト	
(1) 里山再生事業	5
(2) 竹の資源化	6
(3) 「大人の語り場」の開催	6
IV 実行・実現への道筋	
1. 推進体制	6
2. 協働のまちづくり推進に向けて	
(1) 里山再生事業	6
(2) 竹の資源化	6
(3) 町の方々とのコミュニティの形成	7
(参考) これまでの協働事業	7
(参考) これまでの表彰等受賞	8

特定非営利活動法人 かいろう基山 まちづくりの基本的計画図

テーマ	サブテーマ	まちづくりの展開	まちづくりメニュー	内 容	スケジュール			役割分担		リーディング事業	
					短期	中期	長期	地域 団体	行政		協働
癒しの里山づくり ～ 何度でも訪れたい緑と清流の森づくり	環境の保全	里山再生事業 (里山の整備活動) (育林市民力の養成) AND 伐竹の資源化 (竹の製品化) (牛ふん堆肥「基山の力」づくり) ↓ 里山の環境保全 (生命・財産の保全) (土砂災害の防止) (水資源の保全) (地球温暖化の抑制)	(1) 里山再生事業	孟宗竹に侵食された里山に入り、枯れ竹の持ち出し、伐竹、苗木の植樹・育樹等の実施	○	○	○	○	○	里山再生事業 基山町園部地区を中心に孟宗竹に侵食された里山に入り、枯れ竹の持ち出し、伐竹、その後、植樹や育樹を実施し里山を再生する事業 また、再生した里山を利用した環境教育等を行う事業	
			(2) 「市民力」の養成	市民の中に森林ボランティアリーダーを養成する育林市民力養成講座の開講	○	○	○	○	○		
			(3) 体験イベントの開催	伐竹、新竹狩り、植樹、育樹等の体験イベントの実施	○	○	○	○	○		
			(4) 法人との協働イベントの開催	法人との協働による森づくり体験イベントの実施	○	○	○	○	○		
	子どもの健全育成										
	経済活動の活性化			(5) 竹の資源化	伐った竹は竹チップ・竹炭・竹酢液等に、里山から持ち出した枯れた竹はポークラス竹炭等に、竹製品として資源化、それを使った牛ふん堆肥「基山の力」をつくり、収益を町に還元	○	○	○	○	○	竹の資源化 里山再生事業で伐った竹は竹チップ・竹炭・竹酢液等に、里山から持ち出した枯れた竹はポークラス竹炭等に、竹製品とポークラス竹炭等に、竹製品として資源化、それを使った牛ふん堆肥「基山の力」をつくり、収益を町に還元する事業
				(6) 牛ふん堆肥「基山の力」の活用	牛ふん堆肥「基山の力」を野菜作りの土壌改良剤や生ごみコンポストの基材として活用し、収益を町に還元	○	○	○	○	○	
				(7) 子どもの遊び場づくり	子どもの遊び場をつくり、子どもたちに、自然の大切さ、里山保全の重要性を実感してもらうイベントの開催	○	○	○	○	○	
				(8) 「大人の語り場」焚き火の開催	焚き火を囲んで里山の自然を感じながら、町の方々と町外の方々が交流するイベントの開催	○	○	○	○	○	
まちづくりの推進			(9) 町で開催されるイベントへの参加	ふ・れ・あ・いフェスタ、きやま門前市、町で開催されるスポーツ大会などのイベントへの参加	○	○	○	○	○	「大人の語り場」の開催 竹を伐り、綺麗になったフィールドを活用し、焚き火を囲みながら、里山の空気、木々のにおい、自然の音などを感じながら町の方々と町外の方々の交流を深める事業	
			(10) 自治会等との交流	門松づくり体験会の開催、門松や竹ぼっくり等の竹製品の提供	○	○	○	○	○		

I まちづくりのテーマ

「癒しの里山づくり ～ 何度でも訪れたい緑と清流の森づくり」

特定非営利活動法人かいろう基山は、高齢者社会を迎え、さらに高齢化が進む現在、「癒しの里山づくり～何度でも訪れたい緑と清流の森づくり」を活動のテーマとして、高齢者自らが積極的に健康を維持し、老いを楽しみながら地域社会に貢献し、地域の発展・活性化に寄与することを目的に活動しています。

当団体は、今後、基山町民から愛され、支えられる団体であり続け、町民が誇れる団体へと成長し、そのうえで、2034 年を目途として、基山町の自立したナショナルトラスト団体へと発展させることにより、基山町の森を町民自らの手で“癒やしの森、住民が憩える森”へと再生させ、それを次の世代に残していくことを目標として活動していきます。

1. 環境の保全

日本植林発祥の地である基山町は、人工林の荒廃と森林へ侵食した竹の急増とで、森林の持つ多面的機能が阻害され、町の方々の生命・財産を脅かすとともに豊かな景観の保全も難しくなっています。

このような現状を改善するため、荒廃した里山に入り、枯れた竹を持ち出し、孟宗竹を伐り、広葉樹を植える活動（里山保全事業）を継続的に実施し、森林の持つ水源の涵養力、土砂災害防止の機能力、地球温暖化の抑止力等の公益的・多面的機能を回復させることにより、里山の景観を守ることはもちろんのこと、町の方々の生命・財産を守ることが出来ると考えています。

また、こうした活動に市民の力を借りるため、「育林市民力養成講座」を継続的に開講し、森林ボランティアリーダーや準森林ボランティアリーダーを養成していくことも重要となってきます。

2. 子どもの健全育成

環境教育の一環として、多くの子どもたちに、里山の再生事業やセブン-イレブン記念財団との協働事業である「佐賀セブンの森づくり」を体験してもらい、里山保全の重要性を認識してもらうとともに、鳥のさえずり、小川のせせらぎ、草木、花に心を癒されながら、親子のふれあい、昆虫や小動物との触れ合いなどを通じて、自然の大切さを実感してもらうことが出来ると考えています。

3. 経済活動の活性化

里山保全事業で伐った竹や里山から持ち出した枯れた竹を有効利用するため、竹の資源化に取組み「竹の循環システム」の構築を目指しています。

伐った竹は、竹チップ、竹炭、竹酢液、竹パウダー等に、枯れた竹は、ポラス竹炭等に、竹製品として加工・販売しています。

また、竹チップとポラス竹炭を牛糞尿と混ぜた堆肥「基山の力」を製造し、野菜づくりの土壌改良剤や生ごみコンポストの基材として販売することにより、

農地の土壌改良やごみの減量化、地球温暖化の抑制を図り、町の活力向上に寄与することを目指しています。

将来的に、この活動の収益を大幅にアップさせ、その収益を地域通貨（町独自の商品券）などで、ボランティア参加者への対価として支給し、基山町で使ってもらふことにより、収益の一部を町に還元していこうと考えています。

4. まちづくりの推進

竹を伐り綺麗になったフィールドを活用し、焚き火を囲み、里山の空気、木々のおい、自然の音を感じながら、様々な年代、職業の方々の出会いの場（大人の語り場）を開催し、町の方々と町外の方々との交流の場、心の繋がりを深める場を提供することにより、町の方々のコミュニティの形成とその活性化に努めていきます。

また、竹を伐り綺麗になったフィールドに子どもの遊び場をつくり、多くの子どもたちに、直接、自然に触れてもらうことを通じて、自然の大切さ、里山保全の重要性などを実感してもらうイベント等を開催し、子どもの健全育成に努めていきます。

それに加え、町のふ・れ・あ・いフェスタ、きやま門前市、町で開催されるスポーツ大会などのイベントに積極的に出店することや自治会・幼稚園等の各種団体への竹製品の提供など、町の方々とのコミュニケーションを深めることにも努めていきます。

II テーマ別行動計画

（1）里山再生事業

里山再生事業については、行政や近隣地域住民の協力を得ながら、孟宗竹に侵食された里山を復活させるため、枯れた竹を持ち出し、孟宗竹を伐り、広葉樹を植える活動を実施しています。現在までに、約 5.6ha を整備し、2,441 本の植樹を行ってきました。

今後も、毎日 6～10 名程度のボランティアで活動し、年間、約 1,200 本程度の伐竹を実施し、伐った竹や枯れ竹を山から運び出し、植樹等により里山整備を行っていきます。また、整備した森林の維持管理として、新竹狩り、下草刈り、つる切り等の育樹も行っていきます。

しかし、里山再生の実現には、まだまだ不十分なのが現状です。これを解決するためには、法人の永続的な活動と発展、多くの町の方々の協力が必要になります。そのため、積極的な PR や体験イベントの開催などを通じて、法人の活動をもっと知ってもらうことに努めます。

（2）「市民力」の養成

里山再生事業において、この活動に市民の力を借りるため、森林ボランティアリーダーを養成することが大切になります。このため「育林市民力養成講座」を定期

的に開講しており、現在までに、市民 119 名が参加し、内 51 名の森林ボランティアリーダーを養成しています。

今後も、この「育林市民力養成講座」を継続的に開催し、森林ボランティアリーダーを養成していきます。

（３）体験イベントの開催

会員とともに、森林ボランティアリーダーがスタッフとなり、子どもたちを中心に市民の方々に参加していただく「市民の市民による市民のための里山再生事業」のイベントを年 7 回開催しています。

今後も、このイベントを継続して開催していくとともに、竹を完伐した地域（約 5.6ha）を使った、特に子供たちを対象とした環境教育や子どもの遊び場づくり等を事業化し、子どもの健全育成に寄与します。

（４）法人との協働イベントの開催

共通の理念として「森林と人間が調和・共生する森づくり事業」を掲げ、セブン-イレブン記念財団と協働して「佐賀セブンの森づくり」を平成 26 年度から現在まで 10 年間実施しており、多くの子どもたちも参加しています。

今後も、この事業を継続していくとともに、竹を完伐した地域（約 5.6ha）を使った、企業を対象とした環境教育等を事業化し、その企業の協力のもと、子どもの健全育成に寄与します。

（５）竹の資源化

里山再生事業において、課題となっていることが、伐った竹と枯れた竹の処理と活用です。そのため、伐った竹は竹チップ、竹炭、竹酢液等に、里山から持ち出した枯れた竹はポアラス竹炭等に、竹製品として資源化に努めてきましたが、それでも数%の竹を資源化したに過ぎず、多くは現地に残置したままになっていました。その後、平成 27 年度「基山町さが段階チャレンジ交付金事業」において、竹チップ、竹炭を牛糞尿と混ぜた堆肥「基山の力」づくり事業を実施したことにより、伐った竹の約 20%を資源化することが出来るようになりました。

しかし、まだ約 80%もの伐った竹や枯れた竹が現地に残置したままになっており、この残置する量をできるだけ少なくすることは勿論のこと、更には、今まで残置してきた枯れた竹をポアラス竹炭として資源化することに積極的に取組み、災害に強い、綺麗な里山にしていこうと考えています。

今後、今まで努力して形になりつつある「竹の資源化」について、継続的に注力していくとともに、地域内に「竹の循環システム」を構築し、地域の活性化にも貢献できる取組みにします。

このためにも、竹製品の販売力を高め、竹の資源化を収益があげられる事業と発展させ、人が雇える法人となることにより、伐った竹や枯れた竹の処理と活用という課題を解決します。

(6) 牛ふん堆肥「基山の力」の活用

竹チップと竹炭を牛糞尿と混ぜた堆肥「基山の力」を多くの方々に買っていただけるよう取組むとともに、この堆肥を土壌改良剤として、おいしい野菜作り、人と地球にやさしい野菜作り、できるだけ農薬を使わない野菜作りに広く普及していきたいと考えています。特に、町で創設いただいた「里山資源活用堆肥普及事業補助金」制度を最大限に活用し、「基山の力」の普及に努めます。

また、この堆肥「基山の力」を生ごみコンポストの基材として活用するため、生ごみを出さずに堆肥化する「段ボールコンポスト」の講習会を開催するなど、普及に努めていきたいと考えています。それにより、町のごみの減量化、地球温暖化の抑制などに、将来的に寄与します。

(7) 子どもの遊び場づくり

竹を伐り綺麗になったフィールドに子どもの遊び場をつくり、多くの子どもたちに、直接、自然に触れてもらい、鳥のさえずり、小川のせせらぎ、草木、花に心を癒されながら、親子のふれあい、昆虫や小動物との触れ合いを通じて、自然の大切さ、里山保全の重要性などを実感してもらうイベント等を開催し、子どもの健全育成に寄与します。

(8) 「大人の語り場 - 焚火を囲んで」の開催

竹を伐り綺麗になったフィールドを活用し、焚き火を囲んで、様々な方々が語り合う会「大人の語り場」を開催しています。今後も継続的に開催し、町の方々と町外の方々との交流の場、心の繋がりを深める場として、町の方々のコミュニティの形成、活性化に努めます。

(9) 町で開催されるイベントへの参加

町のふ・れ・あ・いフェスタ、きやま門前市、町で開催されるスポーツ大会などのイベントに積極的に出店し、資源化した竹製品の普及と町の方々とのコミュニケーションの醸成に努めます。

(10) 自治会等との交流

自治会との門松づくりイベントの開催、門松の提供、幼稚園等への竹ぽっくりや流しそうめん用の竹の提供等を通じて、町の方々とのコミュニケーションを深めることに積極的に努めます。

Ⅲ リーディングプロジェクト

(1) 里山再生事業

現在までに、約 5.6ha を整備し、2,441 本の植樹を行いました。現在は、毎日 6～10 名程度のボランティアが活動し、年間、伐竹 1,200 本程度、伐った竹や枯れ竹の山からの運び出し、竹を伐り綺麗にした森林の維持管理として、約 5.6ha での新竹狩り、下草刈り、つる切り等の育樹を行っています。

また、森林ボランティアリーダーを養成するための「育林市民力養成講座」を開講し、現在までに、市民 119 名が参加し、内 51 名の森林ボランティアリーダーを養成しています。

さらに、子どもたちを中心とした多くの市民が参加していただく「市民の市民による市民のための里山再生事業」イベントを年 7 回開催、更にセブーンイレブン記念財団と協働して「佐賀セブンの森づくり」を平成 26 年度から現在まで 10 年間実施しており、これからも継続して行きますが、更に多くの企業と共同して「企業の森づくり」を推進していきます。

このように多くの方々と一緒に里山再生事業を実施していきます。

(2) 竹の資源化

森林に侵食して、森林の公益性を害している放置竹林を解消するため、「竹の循環システム」を構築して、竹害を竹財にするための事業です。この資源化がビジネスとして成立すれば大きく変わるはずです。このことを実証していきます。

(3) 「大人の語り場」の開催

町の方々のコミュニティの形成・活性化につなげるため、今後も継続的に開催します。

IV 実行・実現への道筋

1. 推進体制

行政や近隣地域住民の協力を得ながら、ボランティア会員 65 名のうち、現状では、実働会員 16 名、毎日の実働会員 6～10 名程度、年間 230 日前後の態勢で事業を推進していきます。なお、常に実働会員を増やす取組みを継続して行っています。この毎日の活動を継続させること、これこそ事業推進の根幹です。

また、里山再生事業の体験イベントなどにおいては、参加した町の方々が安全に作業できるよう「育林市民力養成講座」を受講した森林ボランティアリーダーがスタッフとして活動します。

2. 協働のまちづくり推進に向けて

(1) 里山再生事業

里山再生事業は、森林の持つ公益的・多面的機能を回復させ、里山の景観や町の方々の生命・財産を守る重要な事業です。今後、町と協働で出来る取組みについて、協議を行っていきたいと考えています。

(2) 竹の資源化

既に、町においては、環境保全型農業及び町内の里山保全活動の推進を図るため、「里山資源活用堆肥普及事業補助金」制度を創設していただきました。この制度の目的を達成するため、出来る限り、この堆肥「基山の力」の普及に努めま

す。

また、「基山の力」を生ごみコンポストの基材として活用することは、将来的には、町のごみの減量化、地球温暖化の抑制などに寄与していくと考えています。

(3) 町の方々とコミュニティの形成

「大人の語り場 - 焚き火を囲んで」を継続的に開催するとともに、子どもの遊び場づくりとイベントの開催、町で開催するイベント等へ積極的な参加などにより、町の方々とコミュニケーションを深めるとともに、町民間のコミュニケーションが深まる場づくりを実施していきます。

(参考) これまでの協働事業

○ 行政との協働事業

- ・平成 20～29 年度：佐賀県事業「県民参加の森林づくり事業」
- ・平成 21～23 年度：佐賀県事業「焔博記念地域活性化事業」
- ・平成 21～23 年度：佐賀県基山町事業「基山町まちづくり基金事業」
- ・平成 25～28 年度：国の事業「森林山村多面的機能発揮対策交付金事業」
- ・平成 27 年度：佐賀県・基山町事業「基山町さが段階チャレンジ交付金事業」
- ・平成 28 年度：佐賀県事業「さが未来スイッチ交付金事業」で「竹チップきゅう肥による循環型農業の定着化事業」
- ・平成 30 年度：佐賀 CSO さいこう事業（モデル型）
事業名：「森づくりをとおし、人づくり、地域づくり」の実施
- ・令和 元年度：佐賀 CSO さいこう事業（モデル型）
事業名：「竹の再資源化」
- ・令和 2 年度：佐賀県事業「さが未来アシスト補助金」

○ 基山町との協働事業

- ・平成 27 年度：林道の草刈側溝清掃枝払い業務委託
- ・平成 28・29 年度：林道の倒木撤去作業委託
- ・平成 28 年度～ ：生ごみコンポストの基材「基山の力」の購入、段ボールコンポスト講習会の実施

○ 企業からの助成受け

- ・平成 22 年度：久光製薬活動助成
- ・平成 24～26 年度：セブン-イレブン記念財団の自立事業助成
- ・平成 27 年度：セブン-イレブン記念財団助成事業
- ・平成 26 年度～ ：セブン-イレブン記念財団と協働で「佐賀セブンの森づくり」実施
- ・令和 3 年度～ ：セブン-イレブン記念財団の「セブンの森づくり助成事業」

○ 企業からの寄付受け

- ・平成 24 年度：久光製薬の久光ほっとハート倶楽部より寄付受け
- ・平成 25～30 年度：「CSO 支援自販機」による支援対象団体に選定され、コカ・コーラウエスト株式会社、佐賀県ヤクルト販売株式会社、佐賀富士ベ
ンディング株式会社(平成 27 度まで)から寄付受け
- ・平成 29 年度：株式会社かんぼ生命保険、プルデンシャル生命保険株式会社から
寄付受け
- ・令和 元年度：久光製薬の久光ほっとハート倶楽部より寄付受け（二度目）

○ ふるさと納税による寄附受け

- ・平成 30 年 15 名、令和元年 8 名、令和 2 年 10 名、令和 3 年 5 名、令和 4 年 2 名、
令和 5 年 2 名、令和 6 年 1 名の方から寄付受け

○ 個人からの寄附受け

- ・令和 5 年度～ 多額の寄付の方 1 名、そのほか年間数名から寄付受け

○ 他の NPO・市民活動団体などとの協働

- ・平成 26 年度：年 3 回ほど、同業団体との協働作業を実施
- ・平成 27 年度：基山町さが段階チャレンジ交付金事業で、基山町、九州大学、
株式会社アビオスと協働
- ・平成 28 年度：基山町と 27 年度事業を継続して実施
- ・平成 28～令和元年度：株式会社アビオスの有機栽培を実施するアビオスファームの
傘下に入り、有機栽培での野菜作りを実施
- ・平成 27 年度～：某畜産農家と共同で「放置竹林解消のための『竹の循環システム』
の構築」を実施

○ 企業・団体との協働・共同研究

- ・セブン-イレブン記念財団と「佐賀セブンの森づくり」を平成 26 年度から現在ま
で 11 年間実施。共通の理念として「森林と人間が調和・共生する森づくり事業」を
掲げ、相互信頼のもと協働

(参 考) これまでの表彰等受賞

- 平成 22 年：環境省主催事業の佐賀県代表
「ストップ温暖化（一村一品）大作戦全国大会 2010」に出場
- 平成 22 年：佐賀県知事より感謝状「緑化推進に尽力」
- 平成 25 年：社会貢献支援財団より「社会貢献者表彰」（佐賀県の推薦）
- 平成 27 年：国交省大臣表彰「水資源功績者表彰」（佐賀県の推薦）
- 平成 29 年：佐賀県知事より「佐賀さいこう表彰(協働部門)」
- 令和 6 年：緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰
- 令和 7 年：第 3 回佐賀県 FUNBAL（ふんばる）堆肥コンクール最優秀賞

資料 かいろう基山 まちづくり計画策定の記録

- かいろう基山のポスター

- 地域おこし仕組み図
- 森林整備実績
- 基山町園部地区地域活性化概念図
- 竹の循環システム

以 上

特定非営利活動法人 かいろう基山

私達と一緒に里山を綺麗に
しませんか！！

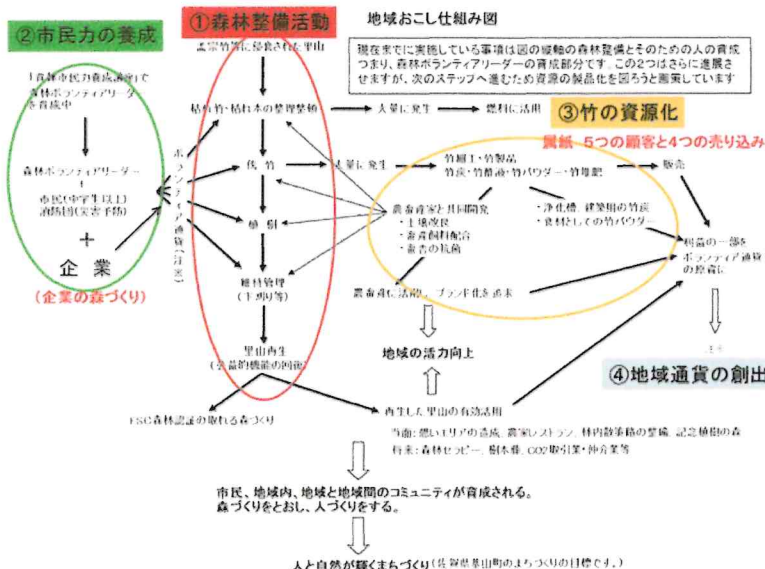


- 設立 : 平成16年1月、法人：同年12月
- かいろう : 快老+快(皆)労+快(皆)朗
- 活動基軸 : 森づくりをととし、人づくり、地域づくり
- 活動日時 : 火～土曜 08:30～11:30
- 会員 : 65名、労力提供者6～10名/日
- 活動内容 : 環境保全
子どもの健全育成
経済の活性化
まちづくりの推進
- ・特に森林を侵食する孟宗竹を伐採処理し、里山環境の保全
- ・竹の資源化...竹炭、竹酢液、竹パウダー、乳酸菌酵母液、牛糞堆肥、農園運営

ビフォー・アフター



整備活動の様子



地域おこし仕組み図

①森林整備活動

孟宗竹等に侵食された里山

枯れ竹・枯れ木の整理整頓

伐竹

植樹

維持管理
(下刈り等)

里山再生
(公益的機能の回復)

FSC森林認証の取れる森づくり

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

②市民力の養成

「育林市民力養成講座」で
森林ボランティアリーダー
を育成中

森林ボランティアリーダー
+
市民 (中学生以上)
消防団 (災害予防)

企業
+
企業

(企業の森づくり)

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

③竹の資源化

属紙 5つの顧客と4つの売り込み

竹細工・竹製品
竹炭・竹酢液・竹パウダー・竹堆肥

販売

農畜産家と共同開発
・土壌改良
・畜産飼料配合
・畜舎の抗菌

浄化槽、建築用の竹炭
・食材としての竹パウダー

利益の一部を
ボランティア通貨
の原資に

注※

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

地域おこし仕組み図

④地域通貨の創出

再生した里山の有効活用

当面: 憩いエリアの造成、農家レストラン、林内散策路の整備、記念植樹の森

将来: 森林セラピー、樹木葬、CO2取引業・仲介業等

市民、地域内、地域と地域間のコミュニティが育成される。
森づくりをおし、人づくりをする。

人と自然が輝くまちづくり (佐賀県基山町のまちづくりの目標です。)

かいろう基山の森林整備実績

基山町：森林面積 952ha
その7割が人工林で、多く
が荒廃

約650ha



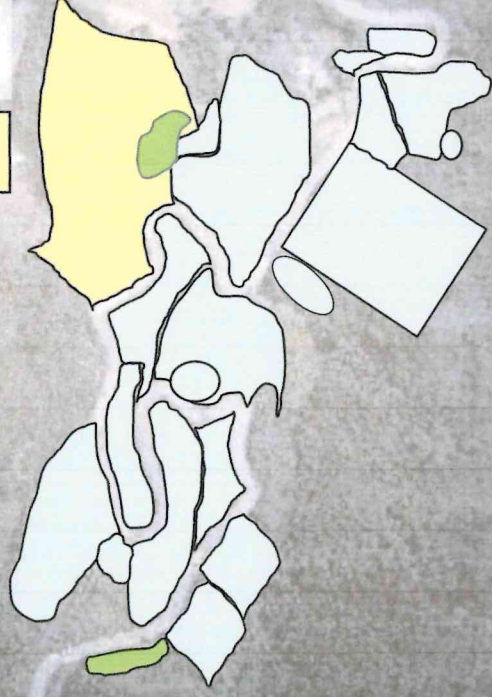
：昨年度まで完伐竹した地域



：伐竹進行中の地域



：着手予定地域



整備面積：約 5.6ha/16年間

年間約1,200本を伐竹しています。

○水田山 ●松田山

基山町園部地区地域活性化概念図



放置竹林解消のための「竹の循環システム」の構築

● 森林整備活動(約6~12名/日で、年間120日~130日実施)



荒廃した里山



侵入した竹の伐採



伐竹後の里山



広葉樹の植樹
(植樹後4年経過)

● 伐り出した竹の有効活用(資源化)

平成27年度基山町さが段階チャレンジ交付金事業

③竹の資源化

「さが段階チャレンジ交付金」事業提案内容
目的: 放置竹林の解消を行ない、事業としての自立化を図る。このため、「竹の循環システム」を構築
・伐採した竹から「竹チップ」「竹パウダー」を製造
・畜産農家と連携し、これを敷料として利用
・「きゅう肥」を作り、耕種農家が肥料として使用
・多くの市民が参加する「市(町)民活動」にしてい
↑
これを産学官民で実施

竹細工・竹製品、竹の乳酸菌酵母液
竹炭・竹酢液・竹パウダー・竹堆肥

農畜産家と共同開発
・土壌改良
・畜産飼料配合
・畜舎の抗菌

・浄化槽、建築用の竹炭
・食材としての竹パウダー

販売

利益を会員に還元
その一部を
ボランティア通貨
の原資に

④地域通貨の創出

地域の活力向上

※活用できてないもの
枯れ竹、枯れ木の大量に発生

燃料に活用

「消し炭」にして
牛舎の敷料に混入



竹きり



竹の搬出



竹チップ作り



ポラス炭作り



田畑への肥料
生ごみコンポスト基材

米、野菜作り

収穫

販売

九州大学: 竹チップ、堆肥施用土壌の成分分析

牛のきゅう肥(堆肥)

竹チップ、ポラス炭を牛の敷料(2W毎交換)に使用



約2ヶ月



敷料交換後14日目

